(m)　新しいパートを開始する前に、測定されたロール又はシャフト回転数を記録し、カウンタをリセットするか別のカウンタに切り替える。試験終了後は、できる限り早く、排出ガス及び希釈空気のサンプルを分析システムに移動し、6.1.1.に従ってサンプルを処理し、試験のサンプル回収フェーズが終了してから20分以内にすべての分析計で排出ガスサンプルバッグの数値を確認する。

(n)　比較分析を行うために、バッグの結果に加えて、希釈排出ガスの１秒ごとのデータもモニターする必要がある。

5.3.　タイプⅡ試験

5.3.1.　測定条件

5.3.1.1.　4.6.に規定したタイプⅡ試験は、アイドリング状態で行うものとし、タイプⅠ試験の直後に測定しなければならない。

5.3.1.2.　以下のパラメータを通常のアイドリング状態で測定し、記録しなければならない。

(a)　採取した排出ガスの容量をもとにしたCO及びHC

(b)　採取した排出ガスの容量をもとにしたCO_2

(c)　試験中のエンジン回転数（公差を含む。）

(d)　試験時のエンジンオイルの温度

5.3.2.　排出ガスのサンプリング

5.3.2.1.　排出ガスの回収は、排気管に密封型のエクステンション部品を取り付け、サンプルプローブを少なくとも排気管の600㎜中に挿入する方法又は密閉型のＣＶＳサンプリング管から分岐する方法としてもよい。これらの際、試験二輪車等の走行に支障を与えず、背圧の増加が±1.25kPa以下になるようにする。エクステンション部品の形状は、サンプルプローブの位置において排出ガスの著しい希釈が生じないようなものを選択するものとする。複数の出口を持つ排気管が試験二輪車等に採用されている場合、これらの出口を結合して１つの管にするか、一酸化炭素含有量を各々の排気管の出口から回収し、含有量の平均値を算出することにより測定結果を求めるものとする。

5.3.2.2.　CO（C_{CO}）、HC（C_{HC}）、CO_2（C_{CO2}）の濃度は、適当な検量線を用いて、測定計器の測定値により決定されるものとする。その結果は、6.2.に従って補正する必要がある。

6.　結果の分析

6.1.　タイプⅠ試験

6.1.1.　排出ガスの分析

6.1.1.1.　バッグに回収されたサンプルの分析

試験の終了後、分析はできる限り早く開始し、いかなる場合でも試験の終了から遅くとも20分以内に以下を求めるものとする。

回収された希釈空気サンプル中のCO等の濃度

回収された希釈排出ガスサンプル中のCO等の濃度

6.1.1.2.　分析計の較正と濃度結果の較正

結果の分析は以下の手順により実施する。

(a)　各サンプルの分析の前に、CO等について使用する分析計のレンジを適当なゼロガスでゼロに設定しなければならない。

(b)　公称濃度がレンジの70％～100％のスパンガスを用いて分析計を検量線に合わせる。

(c)　分析計がゼロを示していることを再度確認する。この場合、(b)で設定したときとの読み値の差がレンジの２％を超える場合は、(a)からやり直す。

(d)　サンプルを分析する。

(e)　分析後、同じガスを使って(a)及び(b)に従って再度確認する。この場合において(c)の読み値との差が２％以内であれば、分析は正常に実施されたものとみなす。

(f)　このセクションのすべてのポイントにおいて、各ガスの流量及び圧力は、分析計の較正中に使われた値と同じでなければならない。

(g)　ガス中に測定された各物質の濃度の数値は、測定装置が安定した後に読み取った値でなければならない。

6.1.1.3.　走行した距離の測定

各試験パートにおいて実際に走行した距離は、累積カウンタで読み取った回転数（5.2.7.参照）をローラの円周で乗じることで求めるものとする。この距離は、㎞単位で測定する。

6.1.1.4.　排出ガス量の決定

試験結果は、各試験及び各サイクルパートにつき、以下の式を用いて計算するものとする。

6.1.1.4.1.　希釈ガスの総容量

以下の式を用いて、20℃（293K）及び101.3kPaの標準状態で測定した場合の値に補正する。

$$V=\frac{293.15\times V_0\times N\times(P_a-P_i)}{101.325\times(T_P+273.15)}$$

V_0　：ポンプＰが１回転する間に送られるガスの容量で、１回転当たり㎥単位で表す。この容量は、吸気と排出の差から求められる。

N　：試験の各パートでポンプＰが達成する回転数

P_a　：kPa単位での周囲圧

P_i　：ポンプＰの吸気部における試験パート中の平均下部圧力（kPa）

T_P　：ポンプＰの吸気部で測定した試験パート中の希釈ガスの温度（℃）

6.1.1.4.2.　炭化水素

試験中に車両の排気管より排出される未燃焼HCの質量を以下の式より計算するものとする。

$$HC_m=\frac{HC_c\times V\times dHC}{dist\times 10^6}$$

HC_m　：試験パート中に排出されたHCの質量（ｇ／㎞）

dist　：6.1.1.3.で定めた距離

V　：6.1.1.4.1.で定めた総容量

dHC　：温度20℃及び圧力101.3kPaにおけるHCの密度。ここで、平均炭素と水素比は１：1.85であり、dHCはガソリンでは0.577kg／㎥。

HC_c　：以下の式によって、炭素等量のppm単位で表した希釈ガスの濃度を希釈空気を考慮して補正した値

$$HC_c=HC_e-HC_d\times\left(1-\frac{1}{DF}\right)$$

HC_e：回収された希釈排出ガスサンプル中のHCの濃度を炭素等量ppm単位で表した値

HC_d：回収された希釈空気サンプル中のHCの濃度を炭素等量ppm単位で表した値

DF　：6.1.1.4.6.で定めた係数

6.1.1.4.3.　一酸化炭素

試験中に車両の排気管より排出されるCOの質量を以下の式で計算するものとする。

$$CO_m=\frac{CO_c\times V\times dCO}{dist\times 10^6}$$

CO_m：試験パート中に排出されたCOの質量（ｇ／㎞）

dist　：6.1.1.3.で定めた距離

V　：6.1.1.4.1.で定めた総容量

dCO：温度20℃及び圧力101.3kPaにおけるCOの密度（dCO＝1.16kg／㎥）

CO_c　：以下の式によってCOのppm単位で表した希釈ガスの濃度を、希釈空気を考慮して補正した値

$$CO_c=CO_e-CO_d\times\left(1-\frac{1}{DF}\right)$$

CO_e　：回収された希釈排出ガスサンプル中のCOの濃度をppm単位で表した値

CO_d　：回収された希釈空気サンプル中のCOの濃度をppm単位で表した値

DF　：6.1.1.4.6.で定めた係数